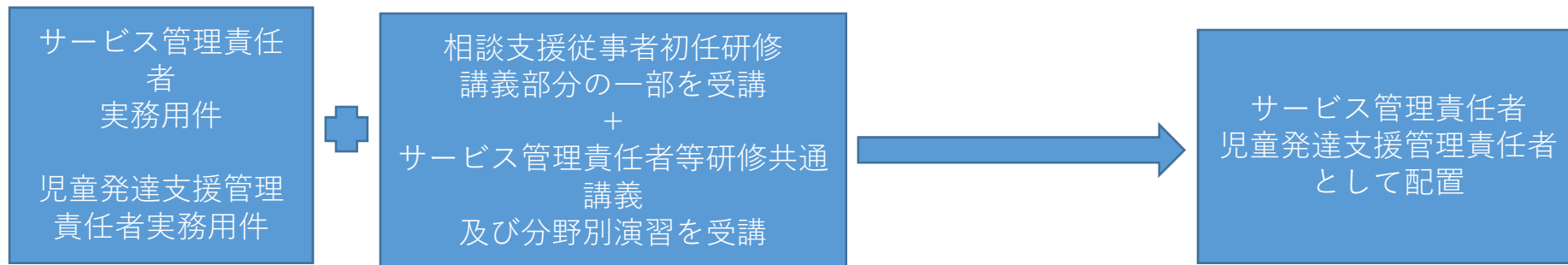


演習ガイドンス

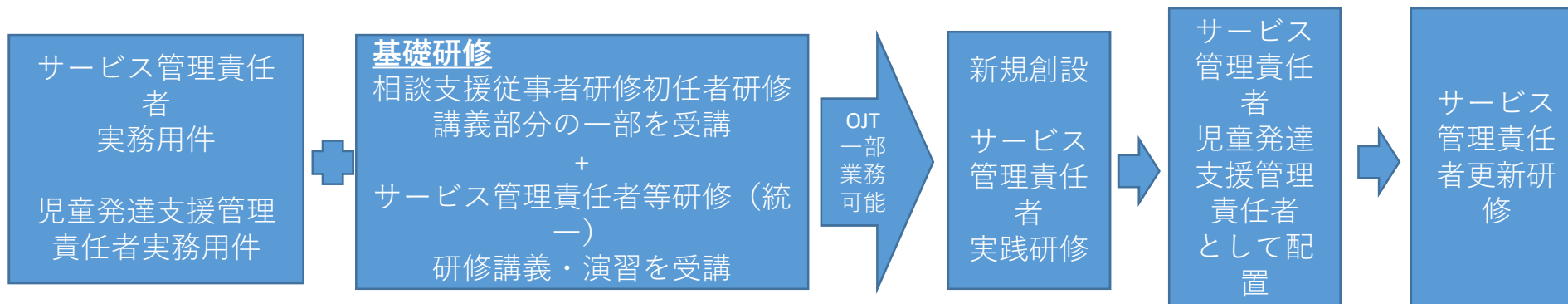
秋田県社会参加推進センター

旧体系



現（新）体系

平成31年度(令和元年度)より



更新研修 演習の内容

目的

- ①行政の動向や制度改正等の最新の情報(アップデート)を得る
- ②サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としてのこれまでの業務内容を振り返るとともに、知識・技術の更なる向上を図る
- ③サービス提供職員等へのスーパービジョンの方法を学ぶ

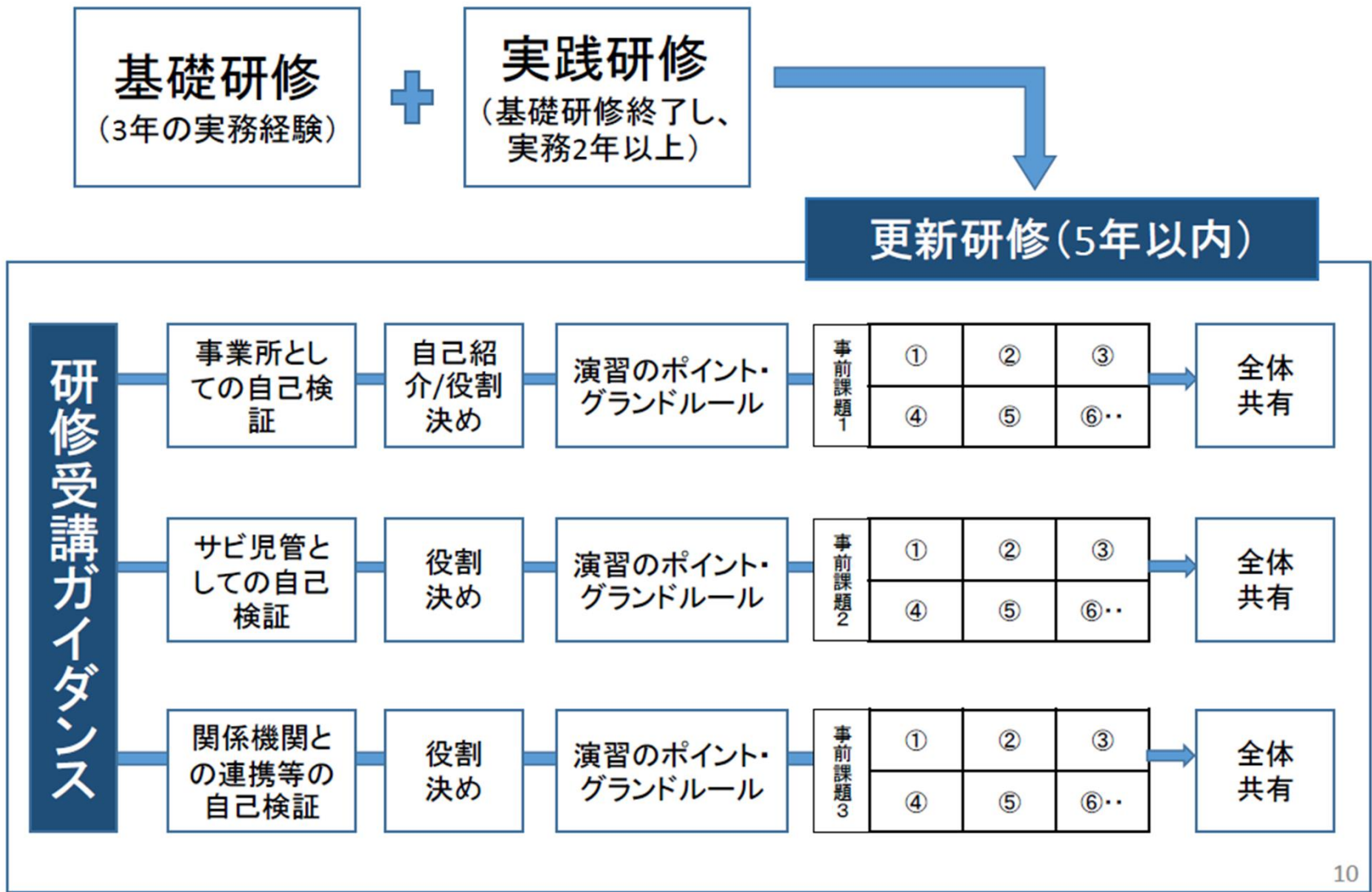
	研修項目	獲得目標
①	障害者福祉施策及び児童福祉施策の動向	最新の動向を学習することにより利用者の制度的な環境の変化を理解する
②	サービス提供事業所としての自己検証 【事前課題1】	各自事業所の取組状況や地域との連携の実践状況を出し合うことにより、コンプライアンスを理解し、今後の事業所としての取組を明確して実践に活かす
	サービス管理責任者としての自己検証 【事前課題2】	サービス提供責任者としての自らの業務を振り返り、支援のあり方や地域とのかかわり方、今後自ら取組むべき課題を明確にして実践に活かす
	関係機関との連携 【事前課題3】	地域の相談支援専門員や関係機関、さらに(自立支援)協議会との連携状況を再確認して実践に活かす。 (自立支援)協議会の役割を理解する。
③	事例検討	サービス提供職員へのスーパービジョンの具体的な技術を獲得し、実践に活かす

更新研修 3つの演習

- 演習1 事前課題1
「サービス提供事業所としての自己検証」
- 演習2 事前課題2
「サービス管理責任者等としての自己検証」
- 演習3 事前課題3
「関係機関との連携」

サビ児管(注1)更新研修の構造及び演習の進め方

(注1) サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者を以下サビ児管と表現



自己紹介

①自己紹介

「氏名、所属先、現在の業務」

（8日：受講者6～7名と演習講師）

（10日：受講者6～9名と演習講師）

【演習1】 目的と要点

「サービス提供事業所としての自己検証」

＜目的＞

このセッションは、サビ児管としてのスキルアップに加え、**サビ児管業務を行える環境（風土）を整えることも必要なことから、**

事前課題1を用いて組織環境の振り返り並びに**参加者の取組みを参考にして自事業所に取り入れること。**

【演習1】 事前課題1を使用した報告と討議

演習1「サービス提供事業所としての自己検証」について

＜事前課題1＞

「組織体制」と「チームワーク」の2つの大項目

- 組織体制の取組の良いところ
- 組織体制の取組の良いと思う理由
- チームワークの取組の良いところ
- チームワークの取組の良いと思う理由

上記4点について、
現時点から直近の事業所での取組を
振り返って記載していただきました。

別添1	
【事前課題1】 サービス(支援)提供事業所としての自己検証(振り返りシート)	
都道府県名	
サービス(支援)の種類	
事業所名	
氏名	
以下の事項について、現時点から一年程度の事業所での取組を振り返り記載してください。	
1-1. 組織体制の取組の良いところ。	
1-2. 組織体制の取組の良いと思う理由。	
2-1. チームワークの取組の良いところ。	
2-2. チームワークの取組の良いと思う理由。	

演習1の手順

事業所としての自己検証

①事前課題1の報告【発表時間1名4分、質問2分×6名～9名】

- ・発表(4分)→質疑(2分)を行う。
- ・「良いと思う取組み」を付箋ツールに記入する。その際1つの付箋に1つの事柄を記入する。

②報告の「良いと思う取組み」を共有する【15分】

- ・付箋ツールに記入したものをKJ法で整理し画面上にまとめる。

③全体共有(発表)【3G×3分=9分】

- ◎組織体制の取組の良いところ
- ◎チームワークの取組の良いところ

理由なども参考にして、「良いな」と思ったことは付箋に箇条書きで記入する。

演習1の留意点

1. 事前課題の内容整理をするにあたっては、批判的なことは避け、**良い取り組みと思われた内容について意見交換し、自身の事業所でも参考にして取り組んでみたいことを整理する。**

2. 報告時の「**良い取り組み**」を見る視点として、①情報伝達や共有方法（日常の業務的コミュニケーション、会議等）、②サビ児管のフォローアップ体制（サビ児管が困ったときの相談できる体制）、③チームアプローチ（管理者や看護師、支援員など事業所内の連携において、サビ児管としてどのような工夫やアプローチをしているか）など。

3. 利用者支援に当たって、サビ児管として個人のスキルを高めていくことの他に、**支援を行う環境・仕組みを組織として整えることも必要なこと**から、サビ児管と管理者とで課題を共有し、改善に向けて協議することも大切である。

演習1

事業所としての自己検証

〇〇Gr

<p>組織体制</p> <p>良い取り組み</p>	<p>コミュニケーション・チームワーク</p> <p>良い取り組み</p>
<p>人材育成</p> <p>良い取り組み</p>	<p>地域とのかかわり・ネットワーク</p> <p>良い取り組み</p>

【演習2】 目的と要点

「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証」

＜目的＞

事前課題2の項目から、①個別支援計画の作成（意思決定支援の展開）、②支援記録、③会議の実施、④支援員への技術指導及び助言、⑤苦情解決、⑥虐待防止（権利擁護）、⑦機密の保持について、事前課題2を用いて自己の業務を振り返り、グループ参加者の意見も参考にしながら、できていないところは改善を図っていく。

【演習2】 事前課題2を使用した報告と討議

演習2「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証」について

＜事前課題2＞

1. 個別支援計画の作成について

①個別支援計画の作成について

②モニタリングについて

③利用者への説明と同意、書面計画書の交付について

2. 記録について

3. 会議について

4. 他の従業者に対する技術指導及び助言について

①日常業務での助言・指導について

②上記の業務を組織として行える体制整備について

5. 苦情解決について

6. 虐待防止について

7. 機密の保持について

上記7点について、現時点から直近の事業所での取組を振り返って記載していただきました。

【事前課題2】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
振り返りシート（自己検証用）

以下の事項について、現時点から一年程度を振り返り記載してください。
※この振り返りシートは、自己検証に求められている役割に対して、現時点でどこまで行えているのかを振り返り、不十分な点はどのようにすれば向上するかを確認しています。

1. 個別支援計画の作成について

(1) 個別支援計画の作成について

①個別支援計画の作成は、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者にとって重要な業務です。あなたが担当した利用者・者に対して、意思決定支援に配慮した個別支援計画の作成ができていますか。

できていない。 _____ できている。
0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 10

②0～10点をつけた理由について記入してください。

③研修などに取り組まれましたか（これは研修の中で記入します）。

(2) モニタリングについて

①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者は、計画を作成することも重要ですがモニタリングによる利用者・者や関係者の状況に対応したサービス（支援）提供や向上に反映する業務が重要です。そのため定期的なモニタリング（6ヶ月に1回以上）が行われていますか？

できていない。 _____ できている。
0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 10

【演習2】 事前課題2を使用した報告と討議

演習2「サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者としての自己検証」について

＜事前課題2 続き＞

それぞれの質問に対する回答方法

- ①出来ている～出来ていないを0～10点でチェック
- ②0～10点をつけた理由を記入
- ③質問項目によっては、達成率や実際の件数を記入

総ての質問項目に「研修後どのように取り組みますか」と言う、まとめの段階で記入する欄もある。

7項目について、現時点から直近の事業所での取組を振り返って記載していただきました。今年度はそれら項目より2項目について報告、検討、まとめをおこないます。検討する2項目は、グループによって異なります。

【事前課題2】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
振り返りシート（自己検証用）

以下の事項について、現時点から一年前まで振り返り記載してください。
※この振り返りシートは、サービスに求められている役割に対して、現時点でどこまで行えているのかを振り返り、不十分な点はどのようにすれば向上するかを確認しています。

1. 個別支援計画の作成について。

(1) 個別支援計画の作成について。

①個別支援計画の作成は、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者にとって重要な業務です。あなたが担当した利用児・者に対して、意思決定支援に配慮した個別支援計画の作成ができていますか。

できていない。 できています。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

②0～10点をつけた理由について記入してください。

③研修後どのように取り組みますか（ここは研修の中で記入します）。

(2) モニタリングについて。

①サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者は、計画を作成することも重要ですがモニタリングによる利用児・者や環境の変化に対応したサービス（支援）提供や向上に反映する業務が重要です。そのため定期的なモニタリング（6ヶ月に1回以上）が行われていますか？

できていない。 できています。

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

【演習2】 グループ別 報告・検討項目

1.個別支援計画(1)～(3)

全グループ

3.会議について



G・H・I

4.技術指導について



J・K・L

5.苦情解決について



A・B・C

6.虐待について



D・E・F・M

演習2の手順

サビ見管としての自己検証

①事前課題2の報告

【発表時間5分→質問2分=7分×6名～9名】

- ・「良いと思う取組み」を付箋ツールに記入する。その際1つの付箋に1つの事柄を記入する。
- ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを考えて付箋にメモする。

②報告に対して良いと思う取組、改善策やアイデアを共有する。 【15分】

- ・付箋ツールに記入したものをKJ法で整理し画面上にまとめる。

④全体共有(発表)【3G×3分=9分】

◎良いと思う取組
◎10点に近づけるアイデア
を2色の付箋に色分けして、箇条書きで記入する。

演習2

事業所としての自己検証

〇〇Gr

<h4>個別支援計画の作成(全Gr)</h4> <p>良い取り組み</p> <p>10に近づけるアイデア</p>	<h4>モニタリングについて(全Gr)</h4> <p>良い取り組み</p> <p>10に近づけるアイデア</p>
<h4>説明と同意(全Gr)</h4> <p>良い取り組み</p> <p>10に近づけるアイデア</p>	<h4>会議or人材育成など(Grによる)</h4> <p>良い取り組み</p> <p>10に近づけるアイデア</p>

演習3の留意点

1. 「良いと思う取り組み」「10点に近づけるかアイデア」について、他者の改善に向けた工夫等を付箋にメモする。
2. サビ見管として必要な業務ができていないこともあるかもしれないが、落胆するのではなく、まずは役割業務を理解し、スキルアップしていくことが大事である。
3. 同じグループのメンバーの報告を聞いて、自分及び自事業所に活用できる事柄を見出す。

【演習3】 目的と要点

「関係機関との連携」

<目的>

- ①関係機関との連携
- ②相談支援専門員との連携、
- ③担当者会議の開催、
- ④自立支援協議会への参加について、

事前課題3を用いて自己の業務を振り返り、グループ参加者の意見も参考にしながら改善を図っていく。

【演習3】 事前課題3を使用した報告と討議

演習3「関係機関との連携」について

＜事前課題3＞

1. 関係機関（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）との連携
2. 相談支援専門員との連携
3. 担当者会議の開催について
4. 自立支援協議会への参加について

【事前課題3】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
振り返りシート（速判用）

以下の事項について、現時点から一年程度を振り返り記載してください。
※この振り返りシートは、すべてに満点を求めていません。できている点は命以上に評価したり、褒賞の精神を期待し、できていない不十分な点はどのようにすれば向上するかを確認しています。

1. 関係機関（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）との連携

①利用児・者の生活は福祉サービスだけで構成されているわけではありません。そのため、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者は必要に応じ関係機関との連携が重要な業務となります。日頃より、関係機関との連携をどのくらい意識して業務を行っていますか。

できていない。 _____ できている。

0. 1. 2. 3. 4. 5. 6. 7. 8. 9. 10.

②0～10点をつけた理由について記入してください。

③研修会のように取り組めますか（ここは研修の中で記入します）。

④自分でよくできたと思うのは担当全体の何割ですか？

約 _____ %

⑤外部との連携が必要となった担当者は過去1年間で何人でしたか？・・・計 _____ 人

⑥連携が効果的であった事例を記載していただきたいと思います。

【演習3】 事前課題3を使用した報告と討議

演習3「関係機関との連携」について

＜事前課題3 続き＞

それぞれの質問に対する回答方法

- ① 出来ている～出来ていないを0～10点でチェック
- ② 0～10点をつけた理由を記入
- ③ 具体的な事例を記入
- ④ 質問3については、達成率等を記入
- ⑤ 質問4については「地域の自立支援協議会にどのような部会があるのか、またその審議内容について調べる。

【事前課題3】 サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者
振り返りシート（連携用）

以下の事項について、現時点から一年程度を振り返り記入してください。
※この振り返りシートは、すべてに意見を求めません。できている点は必ず以上に評価し、現状の維持を期待し、できていない不十分な点はどのようにすれば向上するかを確認しています。

1. 関係機関（企業・学校・医療機関・他の福祉事業所等）との連携

①利用児・童の生活は福祉サービスだけで構成されているわけではありません。そのため、サービス管理責任者・児童発達支援管理責任者は必要に応じて関係機関との連携が重要な働きとなります。日頃より、関係機関との連携をどのくらい実施して業務を行っていますか。

できていない。 _____ できている。
0 → 1 → 2 → 3 → 4 → 5 → 6 → 7 → 8 → 9 → 10

② 0～10点をつけた理由について記入してください。

③ 評価点のように取り組めますか（ここは評価の戸で記入します）。

④ 自分よりよくできたと思うのは担当全体の何%ですか？
約 _____ %

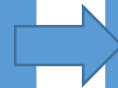
⑤ 外部との連携が必要となった担当者は過去1年間で何人でしたか？・・・計 _____ 人

⑥ 連携が効果的であった事例を記載していただけますか。

【演習3】 グループ別 報告・検討項目

2. 相談支援員との連携 全グループ

1. 関係機関との
連携について



E・F・G・H

3. 担当者会議の開催



I・J・K・L

4. 自立支援協議会の参加



A・B・C・D・M

演習3の手順

関係機関との連携

①事前課題3の報告

【発表時間5分→質問2分＝7分×6名～9名】

- ・「良いと思う取組み」を付箋ツールに記入する。その際1つの付箋に1つの事柄を記入する。
- ・「どのようにすれば10点に近づけるか」について、改善策やアイデアを考えて付箋にメモする。

②報告に対して良いと思う取組、改善策やアイデアを共有する。 【15分】

- ・付箋にメモしたものをKJ法で整理し模造紙にまとめる。

④全体共有(発表)【3G×3分＝9分】

◎良いと思う取組
◎10点に近づけるアイデア
を2色の付箋に色分けして、箇条書きで記入する。

演習3の留意点

1. (自立支援)協議会は、障害者の地域生活を考える場であることから、**事業所が協議会に参画する意味**として、

①利用者は地域の支えもあって生活していることから、事業所も地域の視点を持つことが大事、

②対応が難しい利用者への支援に当たっては、専門機関や地域の協力や理解が必要となること、

③災害時、など様々なことが考えられることをイメージする。

2. 相談支援専門員や関係機関との連携は、**サビ児管が主となって**どのように連携するかを学ぶ。

演習3

事業所としての自己検証

〇〇Gr

| | |
|--|---|
| <p>相談支援専門員との連携</p> <p>良い取り組み</p> | <p>(全グループ)</p> <p>10に近づけるアイデア</p> |
| <p>担当者会議の開催orその他の</p> <p>良い取り組み</p> <p>10に近づけるアイデア</p> | <p>関係機関等(Grによってことなる)</p> <p>良い取り組み</p> <p>10に近づけるアイデア</p> |

研修のまとめ・修了証の配布

①研修のまとめ

②修了証の配布